

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	4	施策名	伝統文化の保存・継承	重点施策		施策主管課長名	東郷 一徳	
施策関係課名	総務課、観光課、文化振興課								
1 基本計画期間(平成20年度～平成24年度)における施策の方針 地域や保存団体が主体となって伝統文化を保存・継承し、市民が学び知る機会を設け、郷土づくりの意識や自発的な保存活動の高まりを促す。そのために、伝統文化や地域で行っている活動を、広く周知するための広報活動の強化に努める。また、文化財や埋蔵文化財などの調査を進めるとともに、保存・整備を図る。									
2 施策の目的と成果把握									
対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		・市民 ・伝統文化		伝統文化とは、有形、無形の文化財(郷土芸能、伝統工芸は含まれる)及び食文化(七草粥など)や風習などいわゆる文化財のことをさす。					
対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
A	指定文化財の数(登録文化財含む)	件	見込み値	119	121	123	125	127	129
			実績値	118	119	119			
B	継承されている郷土芸能の数	件	見込み値	44	44	44	44	44	44
			実績値	43	44	44			
C	その他の伝統文化の数(指定・登録文化財以外)	件	見込み値	501	530	640	570	580	590
			実績値	504	504	565			
意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		伝統文化に触れる機会を持つ 保存・継承される 伝統文化に触れるとは、 ・郷土芸能や年中行事を鑑賞したり、自ら行うこと。 ・伝統文化について学ぶこと。 保存継承される文化財の数とは、 ・文化財の由来や形態、所在地などを調査し、報告書・パンフレット・HPなどで市民に周知した文化財の数。							
成果指標 (意図の達成度を表す指標)				目標達成(105%以上)			目標をほぼ達成(95%～105%未満)		目標を未達成(95%未満)
		単位	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
A	伝統文化に触れている市民の割合	%	成り行き値	67.0	67.0	66.0	66.0	65.0	65.0
			目標値	70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績値	69.0	78.5	81.3			
			達成率	99%	111%	113%			
			結果						
B	伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数	人	成り行き値	2,400	2,300	2,200	2,100	2,000	1,800
			目標値	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450
			実績値	2,432	2,644	2,515			
			達成率	99%	108%	103%			
			結果						
C	保存継承される文化財の数	件	成り行き値	664	664	664	664	664	664
			目標値	664	695	757	690	700	710
			実績値	665	667	684			
			達成率	100%	96%	90%			
			結果						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
E			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				平成24年度の目標値設定の考え方					
・A...伝統文化に触れている市民の割合 総合計画進行管理に係る市民意識調査 ・B...伝統文化(郷土芸能や伝統工芸)の活動者数 郷土芸能や伝統工芸に関わる団体に登録している人数 ・C...保存継承される文化財の数 保存・整備されている文化財の数 文化財の調査を終え、パンフレットやHPに掲載している文化財の数				A ・「伝統文化に触れている市民の割合」については、市民が伝統文化に触れる機会の提供により郷土の歴史への認識を深めてもらうとともに、伝統文化を大切にすることを育み、平成24年度には3%の成果向上を目指す。 B ・「伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数」については、継承者の高齢化などに伴う後継者不足に苦慮している状況があるが、地域が一体となって保存・継承を推進することにより現状の維持に努める。また、活動休止中の団体にも呼びかける。 C ・「保存継承される文化財の数」については、市内にある文化財を後世に残すため、地域住民と連携を図りながら保存・継承を進める。平成21年度現在、指定文化財を含む文化財の数は684件であるが、今後さらに文化財の調査を進め、平成24年度には26件の増加を目指す。					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- ・社会の急激な変動に伴い、伝統文化の中には失われつつあるものがある。そのため、日常的に伝統文化に親しみ、学習する機会を設ける必要がある。
- ・郷土芸能保存会の活性化を図るため、発表の場の提供や保存会の運営に必要な手立てを講じる必要がある。
- ・豊かな文化財を有機的につなぎ、市民や観光客が文化財に親しむ環境づくりが求められている。そのためには、それぞれの文化財を調査し整備を図ることが必要である。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
行政 ・地域の伝統・歴史を市民に知る機会や学ぶ場を提供し、市民の伝統文化に対する理解を深める。 ・伝統文化(特に郷土芸能や年中行事)の活用は、地域の活性化、地域づくり、コミュニケーションづくりの役割としての位置付けができるため、地域と保存団体等との連携を図る。	市民 ・伝統文化を大事にする心を育てること。 ・伝統文化を家庭や地域ぐるみで守り育てること。 地域・団体 ・地域に住む年輩者が、伝統文化を若い世代へ受け継ぐ意識を高めること。 ・伝統文化を将来に継承するリーダーを養成する。

施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- ・近年の急激な社会変化や生活様式の多様化などにより、市民が伝統文化に触れる機会が減少しているほか、古来より連続と受け継がれてきた郷土芸能や風俗・習慣など地域の核となるような伝統行事の存続が危機的状況にある。
- ・開発行為等により、消失する文化財が出てくる恐れがある。

この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- ・議会や保存団体から伝統文化(郷土芸能・年中行事)の継承活動に要する経費については、継続して補助金としての支援が要請されている。
- ・霧島市の文化財は、その質・量とも豊富であり、これを総合的な見地から保存・整備を進めることが大事であるとの市民からの意見が多い。
- ・郷土の歴史・文化に関心を持つ市民が多く、資料の請求や史跡めぐりの開催などの要望が多い。

5 施策の現状

平成21年度施策の取組方針	平成21年度施策の取組方針の達成状況
・市民に各地に点在する文化財の存在を知ってもらうため、「霧島市を知る」事業を展開する。 ・貴重な文化財を将来に遺すため、指定文化財の保存・整備を行う。	・今年度より年次計画に基づく、文化財の現地調査を実施した。(田の神像調査) ・遺跡や建造物の年次計画に基づいた、調査・保存・整備を行った。

平成21年度施策の目標値と実績値の比較

平成21年度施策の成果指標の達成状況

目標達成 105%以上
 目標をほぼ達成 95%~105%未満
 目標を未達成 95%未満

平成21年度成果指標				結果
目標値	実績値	達成率		
A	72.0	81.3	113.0%	
B	2,450	2,515.0	103.0%	
C	757	684.0	90.0%	
D				
E				

- ・伝統文化に触れている市民の割合については、前年度に比べ実績値については2.8ポイント、目標値については9.3ポイント上昇している。その要因としては、市町村合併が4年経過し、初午祭・上野原縄文の森や霧島神宮などの文化財が、わが町の身近な存在として認識されてきていることが考えられる。
- ・伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数については、前年度に比べ実績値は下回ったものの目標値は上回っている。その要因としては、高齢化や後継者不足にも関わらず初午祭などへの参加を通して全体的な活動者数を維持していることが考えられる。
- ・保存されている文化財の数(指定文化財+未指定文化財)については、平成20年度96%に対し、平成21年度は90%と成果指標の目標値は達成することはできなかった。(目標値設定を見直した。)

基本事業の

= すべての目標値を達成 = 一部の目標値を達成 x = すべての目標値を未達成

目標達成度

伝統文化を学ぶ環境づくり

文化財の活用

(平成21年度目標と実績との比較)

保存団体への支援

文化財の保存・整備

x

6 平成22年度の施策の取組方針

(昨年度マネジメントシートより)

- ・文化財については、今まで以上に学ぶ機会の提供や環境を整えるため、市内史跡めぐりなどの開催や史跡の整備に努める。また、郷土芸能保存団体の活性化を図るため、運営支援事業の推進や発表の場の提供に努める。
- ・郷土芸能の保存・伝承については、保存会が中心となって取り組んできたものを地域(地区自治公民館)全体で保存・伝承していくよう働きかけて行く。
- ・鹿児島神宮本殿並びに霧島神社社殿の修復事業については、今後も国・県にその推進について働きかけていく。また、大隅正八幡関連遺跡や真米甕六群の国指定化については、国・県の指導をいただきながら進めていく。

7 平成23年度に向けた施策の課題・方向性

- ・伝統文化には失われつつあるものがあるため、日常的に伝統文化に親しみ、学習する機会を設ける。
- ・郷土芸能保存会の活性化を図るため、発表の場の提供や保存会の運営に必要な手立てを講じる。
- ・文化財を有機的につなぎ、市民や観光客が文化財に親しむ環境づくりが求められているため、それぞれの文化財を調査し整備を図る。

基本事業	4-4-1	基本事業名	伝統文化を学ぶ環境づくり	基本事業 主担当課	文化振興課
------	-------	-------	--------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針	
基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)	
<p>各地域の貴重な伝統文化を、市民に広く学んでもらうため、広報誌や冊子などを通じた情報提供に努める。また、伝統文化を大切に思う心を育むため、伝統文化と親しく触れる機会の提供に努める。</p>	
対象	地域住民
意図	地域の伝統文化を学び郷土を知ることができる。

2 基本事業の指標等の推移		目標達成 (105%以上)	目標をほぼ達成 (95% ~ 105%未満)	目標を未達成 (95%未満)					
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A 伝統文化を知っている市民の割合	%	市民意識調査	成り行き値	67.0	67.0	66.0	66.0	65.0	65.0
			目標値	70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績値	71.5	79.7	80.8			
			達成率	102%	112%	112%			
			結果						
B			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
郷土の伝統文化を知っている市民の割合は、若い世代ほど低下する傾向にあり、今後成り行きとしては減少していくものと思われる。(20代、30代では49%程度の水準) 目標値としては、貴重な郷土芸能や食文化、年中行事、方言などを存続させていくためにも文化財の調査研究や広報活動を強化しながら、地域ぐるみでの保存・活用を促進することで現状水準を維持することを基本に設定する。

4 平成21年度基本事業の取組方針	5 平成21年度基本事業の取組方針の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 市民に伝統文化を知っていただく機会を多く提供する。 伝統文化の調査・研究を実施しその成果を周知するなどして、成果指標の目的達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡めぐりや各種講座・特別展の開催を行い、より多くの市民に伝統文化に触れてもらうことができた。特に、ジオパークに関する副読本を作成したり、『博物館がやってきた』などを実施したりして、児童・生徒への働きかけを行った。 発掘調査の成果を市民に周知するため、遺跡見学会を実施し、より文化財を身近なものと感じてもらえた。

6 平成21年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<p>伝統文化に触れている市民の割合については、前年度に比べ実績値については2.8ポイント、目標値については9.3ポイント上昇している。その要因としては、市町村合併後4年経過し、初午祭・上野原縄文の森や霧島神宮などの文化財が、わが町の身近な存在として認識されてきていることが考えられる。</p>

7 平成22年度基本事業の取組方針	8 平成23年度に向けた基本事業の課題・方向性
<p>市民が伝統文化を学び知る機会を設け、郷土づくりの意識や自発的な保存活動の高まりを促すため「霧島市を知る」事業の展開を図る。また、現在霧島市では、ジオパークの登録に向けた取組みを実施しており、関連事業(火山、地質、地層、植生などを取り入れた史跡めぐりや講演会の実施)の展開を図りたい。</p>	<p>各地域の貴重な伝統文化を、市民に広く学んでもらうため、「霧島市を知る」シリーズ「霧島の神社」を刊行する。伝統文化を大切に思う心を育むため、史跡めぐりや遺跡見学会を実施する。</p>

基本事業	4-4-2	基本事業名	保存団体への支援	基本事業 主担当課	文化振興課 観光課
------	-------	-------	----------	--------------	--------------

1 基本事業の目的、取組み方針

基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)	
・自治会の年間活動計画に伝統文化活動等を導入するなど、地域ぐるみで地域の歴史や伝統を学ぶことのできる環境づくりに努める。 ・校区や自治会等の催しに伝統文化の発表時間を設けて発表の場を確保し、体験の共有を図る。	
対象	・市民 ・保存団体の構成員
意図	伝統文化を継承し、広めてもらう。

2 基本事業の指標等の推移

成果指標名	単位	成果指標の測定方法	目標達成 (105%以上)		目標をほぼ達成 (95% ~ 105%未満)			目標を未達成 (95%未満)		
			数値 区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)	
A 郷土芸能に関わる人数(団体登録者)	人	団体登録者数	成り行き値	2,400	2,300	2,200	2,100	2,000	1,800	
			目標値	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	
			実績値	2,432	2,644	2,515				
			達成率	99%	108%	103%				
			結果							
B 発表を行っている団体数	件	イベント等で発表を行った保存団体の数	成り行き値	44	42	40	38	36	34	
			目標値	44	44	44	44	44	44	
			実績値	43	44	45				
			達成率	98%	100%	102%				
			結果							
C			成り行き値							
			目標値							
			実績値							
			達成率							
			結果							
D			成り行き値							
			目標値							
			実績値							
			達成率							
			結果							

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

郷土芸能等に携わる人や団体は固定化しており、この人々によって郷土芸能として保存され地域の祭事等で発表されている。このように現在保存されている郷土芸能をひき続き保存していくことが目標であり、保存されやすい環境づくりをするために、郷土芸能の発表の機会を提供し、継承している人の伝統文化に対する意識高揚を図る。

4 平成21年度基本事業の取組方針

・これまで以上に郷土芸能を披露する機会を多く設け、市民に郷土芸能の素晴らしさを周知するとともに、保存会の活性化が図られるようにしていく。
 ・郷土芸能は、それぞれの地域に根付いたものであり、保存会のみでの保存継承ではなく地域全体が取り組む体制づくりを図っていく。

5 平成21年度基本事業の取組方針の達成状況

・地区の運動会や敬老会・文化祭で、郷土芸能を発表する機会が設けられるよう呼びかけを行った。
 ・保存会のみでなく、地域全体が郷土芸能を伝承できるよう、地区自治公民館や学校へ呼びかけを行い組織の活性化を図ることができた。

6 平成21年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

・郷土芸能に関わる人数(団体登録者)については、前年度に比べ実績値は下回ったものの目標値は上回っている。その要因としては、高齢化や後継者不足にも関わらず初午祭などへの参加を通して全体的な活動者数を維持していることが考えられる。
 ・発表を行っている団体数については、前年度に比べ実績値、目標値ともに1件上回っている。その要因としては、地域の努力により途絶えていた郷土芸能の復活があったためである。

7 平成22年度基本事業の取組方針

・郷土芸能保存団体の活性化を図るため、発表の場の提供や保存会の運営に必要な手立てを講じる。

8 平成23年度に向けた基本事業の課題・方向性

・地域ぐるみで地域の歴史や伝統を学ぶことのできる環境づくりを行うため、地区自治公民館の年間活動計画に伝統文化活動等を導入していただくよう、働きかけを行う。
 ・郷土芸能保存会の活性化を図るため、郷土芸能祭を開催したり、地域の催しに伝統文化の発表時間を設けて発表の場を確保する。

基本事業	4-4-3	基本事業名 文化財の保存・整備		基本事業 主担当課	文化振興課
------	-------	--------------------	--	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針			
基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)			
・文化財を保護するために必要な整備を行う。また、文化財の指定については、文化遺産として年次的に登録するための調査を実施する。 ・地域が主体となった文化財保護活動・環境整備推進のため、地区自治公民館、自治会等と連携し、文化財への理解と協力を求めていく。また、文化財の保存・活用を担う地域リーダーを養成するための取組みを行う。			
対象	文化財	意図	適切に保存し、後世に残す。

2 基本事業の指標等の推移		目標達成 (105%以上)		目標をほぼ達成 (95% ~ 105%未達)			目標を未達成 (95%未達)		
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A 保存されている文化財の数 (指定文化財 + 未指定文化財)	件	市民に周知している文化財の数	成り行き値	664	664	664	664	664	664
			目標値	664	695	757	690	700	710
			実績値	665	667	684			
			達成率	100%	96%	90%			
			結果						
B 整備する文化財の数(累計)	件	整備した文化財の数	成り行き値	190	190	190	190	190	10
			目標値	210	242	263	284	305	326
			実績値	214	237	248			
			達成率	102%	98%	94%			
			結果						
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
文化財は地域で保存していくことを基本とし、現在保存されている文化財を引き続き保存継承することを目標とする。

4 平成21年度基本事業の取組方針	5 平成21年度基本事業の取組方針の達成状況
・文化財の現状を把握するための現地調査の実施やその調査成果に伴う整備を図る。 ・整備した文化財を市民へいかに普及するかを検討する。	・大隅国分寺跡や大隅正八幡宮関連遺跡の発掘調査を実施した。 ・鹿児島神宮・霧島神宮の社殿修復事業を実施した。

6 平成21年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
・保存されている文化財の数(指定文化財 + 未指定文化財)については、平成20年度96%に対し、平成21年度は90%と成果指標の目標値は達成することはできなかった。(目標値設定を見直した。) ・整備する文化財の数(累計)については、前年度に比べ実績値では11件増えているものの、目標値は下回った。その要因としては、当初想定していた数より看板設置箇所が少なかったためである。

7 平成22年度基本事業の取組方針	8 平成23年度に向けた基本事業の課題・方向性
文化財の整備に必要な調査を実施し、その成果に基づいた整備を図る。また、文化財の調査・研究の成果を市民へ周知を図る。	・文化財を保護するため、必要な整備を行う。 ・文化財の指定を目指すため、調査を実施する。

基本事業	4-4-4	基本事業名 文化財の活用	基本事業 主担当課	文化振興課
------	-------	-----------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)	
<p>市内に点在している文化財を史跡めぐりコースの設定を行うことで、市民が郷土の歴史への理解を深めるとともに、観光資源としての活用も検討していく。</p>	
対 象	市民
意 図	文化財を学び郷土の歴史を正しく理解する。

2 基本事業の指標等の推移

成果指標名		単位	成果指標の測定方法	目標達成 (105%以上)		目標をほぼ達成 (95% ~ 105%未満)			目標を未達成 (95%未満)	
				数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A	郷土の歴史を学んだ市民の数	人	郷土館入館者数、各種イベント参加者数	成り行き値	8,000	7,500	7,000	6,500	6,000	5,500
				目標値	9,000	9,200	9,400	9,600	9,800	10,000
				実績値	8,753	9,254	9,512			
				達成率	97%	101%	101%			
				結果						
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
D				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

「霧島市の歴史を知る」企画として、現状で述べた事業を今後も継続して実施する計画であるが、郷土館の入館者や史跡めぐりの参加者のみでは減少傾向になると思われる。そこで、文化財マスタープランの作成や「歴史探索の道」ルート指定をするなど、郷土の歴史を学べる環境とその機会を更に充実していくことで、市民が霧島市の歴史に触れる人の数を、19年度以降年次的に増加させていくことを前提としての目標値とした。

4 平成21年度基本事業の取組方針

- 郷土館の資料を活用した、企画展・収蔵品展等を実施する。
- 郷土館や文化財等と連携したスタンプラリーや市内史跡めぐり等を実施し、文化財等と触れる機会を多く設ける。

5 平成21年度基本事業の取組方針の達成状況

- 鹿児島県立博物館との共催事業「博物館がやってきた」を開催し、児童・生徒をはじめ多くの市民に貴重な文化財に触れる機会を提供できた。また、郷土館等でも、企画展や巡回展を実施した。
- スタンプラリーや市内史跡めぐり等を実施し、史跡やジオパーク関連の自然遺産に触れることができた。

6 平成21年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

郷土の歴史を学んだ市民の数については実績値、目標値ともに上回った。その要因としては、郷土資料や史跡、ジオパークに関係する自然遺産を活用した事業の展開を積極的に行ったことが考えられる。

7 平成22年度基本事業の取組方針

霧島市の歴史や文化、風習などを理解し愛郷心の高揚を図るため、市内史跡めぐりや郷土館等での企画展などを実施する。

8 平成23年度に向けた基本事業の課題・方向性

市民が郷土の歴史への理解を深めるために、市内の豊富な文化財を活用した史跡めぐり等を積極的に進めていく。

霧島市の歴史や文化、風習などを理解し愛郷心の高揚を図るため、平成25年度に実施する大隅国建国1300年事業への取り組みを推進し、広報活動を図っていく。